

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月17日実施)	総合評価(3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	児童・生徒が主体的に学び行動し、対話的に学び高めあう力を育み、地域の資源等を活用した活動を取り入れ、社会に開かれた教育課程を編成する	①校内研究のテーマとして授業実践・授業改善・授業研究に取り組む。 ②地域の資源等を活かした活動や授業を実践し検証する。	①教員一人一回テーマを取り入れた研究授業を行う。(略案可) ②各学部で地域の資源を活用した授業に取り組む。	①テーマを取り入れた授業について教員一人一回の研究授業を実施し、生徒・保護者・他の教員による評価を得て授業改善できたか。 ②各学部で地域の資源を活用した授業を工夫して取り組むことができたか。	①校内研究としての学部ごとに取組みテーマの共有と観点の整理を進めた。教員アンケート研究授業実施44% ②コロナの影響で制限のある中ではあったが、学部ごとに地域資源を活用した授業に取り組めた。	①一人一人の授業改善への向ける取組としては十分ではなかった。学部で計画的に取り組んだ例もあるので参考にしてい ②地域資源を活用した実践を進め、検証を重ねて改善していく。	①具体的にどのような授業改善の変化が見られたのかを出せるとよい。 ②今年度取り組みなかったことは次年度挑戦していけるとよい。	①校内研究として各学部で取り組んできた。教員それぞれの授業改善との関連は検証できていない。 ②様々な地域資源を活用してきた。制約を受ける中でも実施できる方法も考えていく必要がある。	①一人ひとりの授業改善と研究が連動していく研究計画を立てていく。 ②オンラインなど色々な方法を活用していく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた専門性の高い指導を行うと共に校内指導体制をさらに整備する。	①「学部コーディネーター」の役割を明確化し、学部・部門内での相談・支援体制を充実させる。 ②学部や児童・生徒の実態に応じた「アセスメント」を行い授業等へ活用する。	①「学部コーディネーター」が核となり、学部のケース会や研修を行う。 ②各学部で「アセスメント」についての研修を専門職等と協力して実施し、個別教育計画を作成に際し活用する。	①「学部コーディネーター」の役割が明確となり学部の実態に応じたケース会や研修が実施できたか。 ②アセスメントを活用して作成した個別教育計画に基づき、授業計画をたて実施できたか。(教員アンケートでの「授業で活用できた」85%)	①「学部コーディネーター」が中心となり学部のニーズに応じた研修会を持つことができた。 ②教員アンケートでの「授業で活用できた」75%	①「学部コーディネーター」が機能的に動いて学部のニーズに応じたケース会や研修を企画実施できた。 ②学部の実態に応じたアセスメントを行ってきた。さらに活用について検証をしていく。	①② 児童生徒一人ひとりのニーズを知るための色々な取組がわかる。概ね目標は達成できている。 ②各学部の実態やニーズに応じたアセスメントを実施してきた。活用については今後もさらに進める必要がある。	①「学部コーディネーター」が機能的に動いて学部のニーズに応じたケース会や研修を実施できた。 ②アセスメントの研修を継続して行い、活用していく。	①今後も継続する。 ②アセスメントの研修を継続して行い、活用していく。
3	進路指導・支援	個々のライフキャリア・ワークキャリアを見据えた進路指導・支援を行う	①全ての学部の教員が進路指導・支援に関する知識や実践力を向上させる。 ②全学部でキャリアパスポートの活用に向けて理解を深める	①学部に応じ、進路に関する研修を実施する。 ②作成・活用についての研修を行う。	①進路に関する研修により知識や実践力が向上できたか。(教員アンケート「向上できた」85%) ②キャリアパスポートの活用について理解が進み作成できたか。	①研修は効果的に実施できた。教員アンケート「向上できた」79% ②夏季の研修によりキャリアパスポートについての理解は進んだ	①さらに学部の実態にあわせた研修を企画していく。状況に応じて施設見学等を計画する。 ②実際に活用し課題等を整理していく。	①教員の進路に関する理解を高めていくことは大切なので、継続して研修会を実施するとよい。 ②理解は進んだので実際に活用して課題を整理していく。	①学部に応じた研修会は実施できた。実際の進路先の見学の実施が必要である。 ②活用し課題を整理していく。	①今後も学部の応じた研修会を行う。進路先の見学も状況に応じて計画する。 ②活用し課題を整理していく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月17日実施)	総合評価(3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域のセンター的機能の充実を図るとともに、地域と連携した活動の機会を設ける	①教育相談コーディネーターを核に校内の人材を活用しながら学校コンサルテーションを充実させる。 ②地域に中原養護学校の持つ資源を発信していく。	①学校コンサルテーションの際にニーズに適した校内の人材も同行させる。 ②教材データベースや校内人材バンクを作成し、本校の持つ資源について情報整理をする。	①地域のニーズに応じた学校コンサルテーションが実施できたか。 ②本校の持つ資源を校内で共有し、地域へ発信していくことができたか。	①専門職同行のコンサルテーションを1回実施した。 ②学部では教材の整理を進めた。支援では教材データベース等の作成に着手した。	①回数が少ないことについてその原因を検証する。 ②整理し校内での活用を進め、地域へは発信していく。	①相談や支援体制の充実については地域関係機関として協力をしていく。 ②学部や部署での整理に留まっているので校内全体としてまとめていく必要がある。	①本校の果たすセンター的機能について検討していく。 ②校内の教材データベース・人材バンクを作成する。	
5	学校管理 学校運営	保護者や地域から信頼・信用される安心安全な学校づくりを行う。	①安心安全で効率的な業務が遂行できる職場環境を作る。 ②保護者や地域に学校から適時情報発信を行う	①安心安全な環境や効率的な業務改善についてアイデア提案を募り具現化を検討する。 ②HP やツイッター、文書などを効果的に利用し情報発信を行う。	①アイデア・提案が具現化され職場環境が改善されたか。(教員アンケートから肯定的意見 80%以上) ②様々な情報が発信されたか。(保護者アンケートで肯定的意見 80%)	①学部・グループからは様々な提案され業務改善をしてきた。教員アンケートでの肯定的意見 67% ②第2回保護者アンケートで肯定的意見 83%	①業務改善や効率化が見える化等して教員が実感を持てるようにしていく。 ②今後も様々な媒体を利用して効果的な情報発信を行う。	①教員アンケートでの肯定的意見が高く、教員の自己肯定感が高く学校の原動力となっている。 ②HP やツイッターは学校と保護者の距離が近くなり良い取組である。	①アイデアや提案が具現化され職場環境が改善されてきた。さらに改善を進める。 ②保護者アンケート、学校関係者評価でも高い評価を得た。	①今後も継続する。 ②今後も継続する。